

助産師教育

NEWS LETTER



公益社団法人

全国助産師教育協議会

Japan Society of Midwifery Education

No.97 2025. 10. 1

社会から、女性から頼られ、 必要とされる助産師教育をめざして

公益社団法人全国助産師教育協議会 会長
札幌医科大学 正岡 経子



2025年度の定時社員総会において、新理事会が発足し、全国助産師教育協議会の会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

現在は、札幌医科大学専攻科助産学専攻にて教育を担当しており、これまで専門職大学院でも教育経験があります。当協議会の活動としては、天使女子短期大学で助産師養成に関わっていた助手時代より会員校の一員として定時社員総会や全国研修会に出席させて頂き、先輩諸姉の活動から勉強をさせて頂きました。2017～2018年度には、組織強化委員会担当理事となり、会員確保のためのリーフレット作成および、当協議会の活動マップの作成、助産師教員のキャリアラダーの見直し、当協議会入会の意義を明らかにするための会員対象の調査を行いました。当時の会議形態は、参集一択でしたので、北海道の教育機関の教員に委員会の構成員になって頂き、活動に取り組みました。2019～2020年度は、会計担当理事を拝命いたしました。馴染みのない会計用語に奮闘しつつ、赤字会計に悩みました。2020年3月には当時、護国寺にあった東京都助産師会館から現在の四谷への事務所に移転しました。折しも日本中、世界中でコロナパンデミックとなり当協議会の活動にも大きく影響し、公益社団法人としての財務基準判定において黒字で不適合となった激動の年でした。2023～2024年度は、庶務・総務担当の副会長として活動しました。協議会の活動の拠り所となる定款や規程を確認し対応を検討すること、各省庁へ出向き要望書を提出する等の経験をさせて頂きました。この先に、よもや会長という役職を拝命するとはまさに想定外であり夢にも思っておりませんでした。役

員選挙で選んでいただいたこと、そして理事会構成員から会長に選出していただいたことに感謝し、その重責を真摯に受け止め、全力で取り組む決意を新たにしております。時代のニーズに敏感に応え、常に「女性と共にある」助産師の育成に力を尽くしてまいります。

現在日本は、超少子化時代を迎え、高齢出産、ハイリスク妊娠・出産の増加、女性・家族のニーズの多様化、産後うつやプレコンセプションケアの充実などの女性の健康や妊娠・出産・子育てを巡る課題は山積しています。このような中、助産師の役割に対する社会からの期待は大きく、その職責を全うすることが求められています。女性の生涯を通しての性や生殖にかかわる健康生活の援助に助産師独自の機能を果たし、女性と家族の健康生活の質的向上に寄与していける助産師の育成に資する環境づくりに邁進していきたいと思ひます。

今年度は、当協議会の将来ビジョン2026を検討する重要な年となります。助産学実習（特に分べんの取り扱い）と実習到達度を担保する取り組み、公正・公平で質の高い助産学共用試験システムの構築、助産師教員キャリアラダーをはじめ教育力の向上・保証するための取り組みを検討・発展させていきたいと考えています。助産師としての誇りと覚悟を受け継ぎ、これまでの歩みに宿る知恵を見いだしてまいります。助産師の役割・責務を果たし、社会から、女性から頼られる、必要とされる存在になるための知恵を出し合い、考え続ける協議会を目指していく所存です。今後ともご指導・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

扉	1
教育・活動報告	2
ニュース	4
わかばの部屋	5

全助協からのお知らせ	6
トピック	7
理事会報告	8

第50回 全国助産師教育協議会 全国研修会報告書

テーマ「こどもを中心とした社会をつくる多職種連携と助産師教育」

関東甲信越地区

昭和医科大学助産学専攻科

上田 邦枝

志村 千鶴子 (亀田医療大学)

島田 智織 (茨城県立医療大学)

記念すべき第50回全国研修会は、令和6年11月9日(土)に、多職種連携の視点から1名でも多くの方にご参加頂くことを目的とし、2つの講演と1つのシンポジウムを企画し、オープンなWEB開催といたしました。

1. 研修受講状況

研修会事前申込み人数:424名、研修会当日参加者人数:310名、職種別では、助産師:156名、助産・看護教員:118名、看護師:7名、なし・不明:29名。修了証の発行数は、講演1:207名、講演2:208名、シンポジウム:211名でありました。

2. 研修会内容(テーマ)と講師

- 1) 講演1: こどもとこどもを支える人の健康「女性と頭痛」 茨城県立医療大学 前学長 松村 明先生
- 2) 講演2: 多職種連携に必要なコミュニケーション力 産業医科大学産業保健学部 教授 河村 洋子先生
- 3) シンポジウム

①助産師教育に活かす現場からの声ー特別養子縁組の実際と助産師への期待ー

NPO法人代表Babyほけっと代表 岡田 卓子先生

②乳児院における母子への支援から考える助産師の役割

日本赤十字社医療センター附属乳児院 師長 柳村 直子先生

③助産師教育に活かす現場からの声ー社会的養護の実際と助産師への期待

社会福祉法人 同仁会 児童養護施設 つくば香風寮 施設長(臨床心理士) 江原 勝久先生

④乳幼児の虐待防止のために助産師ができる診断とケア

認定NPO法人 チャイルドファーストジャパン (CFJ) 理事長 山田不二子先生

3. アンケート結果

形式	テーマ	人数	大変有意義だった	有意義だった	あまり有意義ではない
講演	女性と頭痛	211名	155名(73%)	52名(25%)	4名(2%)
講演	多職種連携に必要なコミュニケーション力	211名	130名(62%)	73名(34%)	8名(4%)
シンポジウム	助産師教育に活かす多職種の取り組み	211名	169名(80%)	42名(20%)	0名(0%)

- 1) 講演1『最近、頭痛を抱えながら働く同僚や学生からの相談を受けることが多く、他の研修ではなかなかテーマとなることがなかったため、勉強になりました。』『最近慢性頭痛を訴えている妊婦さんと接し、ガイドラインがあることを知り、観察の視点が細かく分かり勉強になりました。』
- 2) 講演2『助産師として、地域と関わり、他部門と関わるため連携が大事と思っていたが、“他部門”という考えでなく“チーム”として考えることや、コミュニケーションのあり方など興味深かった。』『教育の中で学生間のコミュニケーションスキルを向上させる方法を理論に関連付けて学ぶことができた。』
- 3) シンポジウム『養子縁組、乳児院、児童相談所のことは知らないことが多くあり、何かできることをしていきたい。』『虐待の現場について知り、医療職としてできることがたくさんあると感じた。』『強いて言うなら、少しだけ長くてもよかったと思いました。』『助産師として病院や、地域の現場では知り得ない貴重な機会です。視座が変わる感覚がありました。』などがありました。

4. 研修会総括

今後の助産師教育に十分に活用でき、アンケート結果より研修の成果を得ることができました。シンポジウムでは、参加者の「もっと聴きたい」、「時間が長くていい」という学びのニーズが高く、時間配分等の課題は残りました。しかし、プロジェクトメンバーのチームワークが大変良く、楽しみながら学びながら企画・運営ができました。今後、様々な先生方に企画・運営の役割を担って頂く事により、さらに発展的で創造的な研修会になると感じます。事前に、会員の皆様方の学びのニーズを調査することも今後の課題であると思いました。皆様のご協力をおもなことで、無事に開催できましたことを、こころより厚く御礼申し上げます。

2025年度 第16回（通算61回） 公益社団法人 全国助産師教育協議会定時社員総会報告

2023-2024年度 全国助産師教育協議会副会長
札幌医科大学 正岡 経子

2025年6月21日（土）・22日（日）に、第16回（通算61回）の定時社員総会が札幌医科大学にて、対面とWebのハイブリッドで開催されました。6月21日（土）の開会冒頭では、葉久真理会長より超少子化による助産学生の分娩介助実習が困難な状況への一方策として、各都道府県に基金として予算措置されている助産学実習受け入れ施設に対する補助金の活用について説明がありました。また、2030年のカリキュラム改正の基礎資料とするため、厚生労働行政推進調査事業費補助金の交付を受け、当協議会で助産基礎教育における臨地実習のあり方に関する研究を実施することから、会員校への調査協力の依頼がなされました。

続いて、ご来賓の文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官の加藤治実様から「看護系大学の現状と課題～助産師教育の動向を含めて～」、厚生労働省医政局看護課看護サービス推進室室長補佐（併任）助産教育・業務推進専門官の内田愛子様から「看護行政の動向と助産師教育への期待」、こども家庭庁成育局母子保健課母子保健指導専門官の齊藤綾子様から「母子保健の動向と助産師の役割」についてご講演いただきました。

総会議事では、議長に荒木奈緒氏（札幌市立大学）、議事録署名人に安積陽子氏（三重大学）、木村奈緒美氏（奈良県立医科大学）が選任されました。正会員総数333名中会場出席は88名、議決権行使書および委任状の提出は188名、合計で276名の出席があり、定款第30条に基づき総会が成立していることが報告され、議案の報告・審議に入りました。2024年度の事業報告として正岡経子副会長（総務）から委員会等活動報告がなされ、続いて、関東甲信越地区の清水清美氏（地区長総括）から7地区の活動報告、第50回全国研修会について関東甲信越地区昭和医科大学上田邦枝氏（開催担当校）より報告を頂きました。次に決議に入りました。会計担当太田尚子理事から2024年度収支決算の説明および渡邊典子監事から監査報告がありました。また、正岡経子副会長（総務）から役員選挙管理規程の一部改正（案）について、最後に選挙管理委員会菱沼由梨委員長より役員改選の結果として理事役員および監事役員候補者について説明がありました。いずれも過半数をもって異議なく承認されました。

休憩の後、将来構想委員会担当の五十嵐稔子理

事より「コロナ禍後の助産学実習（分娩の取り扱い）と実習到達度を担保するための取組みに関する全国調査の結果報告」がありました。報告の後、分娩期の到達目標達成に向けた分娩の取り扱い10回程度のあり様について意見交換を行いました。会場からは、現在および今後の出生数や帝王切開率を踏まえ、現実的な分娩介助実習を検討する必要があることや、新人助産師の卒後研修とのつながりの中で助産学実習を検討してはどうかといった意見がありました。また、Web参加の方からはチャットを通して、10例の分娩介助が出来た時の学生の仕上がり度が大事である、10例程度は必要であり、正期産以外など10例に含める対象者を拡大してはどうかといった意見が出されました。活発な意見交換が行われ、引き続き皆様の意見を伺いながら検討していくことになりました。

6月22日（日）の2日目は、新旧理事のご挨拶の後、助産師教育の発展を目指した取り組みとして3つの講演がありました。まず、助産学共用試験実装推進委員会担当の谷口千絵理事から当協議会の将来ビジョンを具現化する活動の1つとして「助産学共用試験の取組みと今後の方向性」について説明がありました。次に組織強化委員会（国内・国際）の松崎政代委員長から助産師教員の教育力向上・保証を図る対策の1つとして「助産師教育の質保証と分野別評価の必要性」について説明がありました。また日本助産評価機構の江藤宏美理事から「助産師教育の質保証と分野別評価の必要性」についてご説明頂きました。続いて、ヘルシー・ソサエティ賞教育部門受賞記念講演として、聖路加国際大学学長の堀内成子先生より「学生と教員がいきいき輝く助産教育」というテーマでご講演頂きました。

最後に、小川久貴子副会長が閉会の挨拶を述べ終了いたしました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。



助産学共用試験実施概要 ①助産学CBT

大阪大学大学院

渡邊 浩子

助産学実習開始前の学生の質を全国一定水準に担保するために、「Computer Based Testing: CBT」の導入開始に向けた準備を進めている。下記が実施概要である。

1. 出題範囲（問題数・試験時間）

「望ましい助産師教育におけるコア・カリキュラム2020年版」に分類されている7つのカテゴリーを2科目に再分類し出題。

科目1（100問、100分）：「マタニティケア」

科目2（50問、50分）：「助産師として求められる基本的な資質・能力」「社会と助産学」「プレコンセプションケア」「ウイメンズヘルスケア」「マネジメント・助産政策」「助産学研究」

2. 出題形式

タキソノミーⅠ型（知識の想起）・Ⅰ'型（推定）の多肢選択式問題。会員校の教員の協力を得て作成

したプール問題から150問をランダムに出題。問題の質（難易度、良問か否か）は、項目反応理論で評価。

3. 助産学CBTの基準点と合否判定

正答率60%（90問正解）を基準点とする。受験者には試験終了後にPC上に得点が、養成校には各受験者の得点が後日提示される。現在は、合否判定は各養成校の責任者に一任しているが、令和8年度以降は運営移譲先の日本助産評価機構の判定基準に準ずる。

4. 実施場所・実施方法

各養成校にて、教員の監督下で集合形式で実施する。

助産学CBTは、臨地実習に出る助産学生、実習を受け入れる臨床側においても、母子の安全を確保する上で重要な意義をもつ。

助産学共用試験実施概要 ②助産学OSCE

天使大学大学院

藤井 宏子

全国助産師教育協議会（以下、全助協）では、助産学共用試験の全国的な展開に向けて、体制整備を進めている。ご存じのとおり、助産学のObjective Structured Clinical Examination（以下、助産学OSCE）は、評価者やシミュレーターの前準備を含む、人的・物的資源の確保が不可欠である。

2025年6月10日現在、助産学OSCE評価者養成研修は6回開催され、会員校の教員139名が評価者として登録された。あわせて、学生を対象とした助産学OSCEトライアルも、会員校7校において実施された。

助産学OSCEの実施および運営は、受験する助産師学生の所属機関が担うこととなっている。なお、2028年度より、助産学OSCEの運営管理は、全助協から日本助産評価機構へと移譲される予定である。この移行に備え、トライアル期間中に実施や運営を経験しておくことが強く推奨される。

助産師を目指す学生が助産学実習を開始する前に、その能力を公正かつ客観的に評価し、質の高い教育の保証につなげていくため、今後も会員校と緊密に情報を共有し、協働して取り組んでいく。

“教える”から“見守る”へ

札幌医科大学

保健医療学部看護学科/専攻科助産学専攻 竹内 彩弥香

私は約15年の臨床経験を経て教員としてのスタートを切り、現在、教員3年目の夏を迎えています。臨床での最後の3年間は、母校である札幌医科大学で社会人大学院生として過ごしました。看護研究を深く学び直したいという思いで進学した大学院でしたが、その先に教員としての道があることは、当時、漠然としかイメージしていませんでした。まさか自分が母校で教員として働くことになるとは、思いもよらない展開でした。

教員として働き始めた当初は、「学生には正しいことを伝えなければいけない」「教員なのだから間違えてはいけない」「もっと上手に教えなければ」といった考えにとらわれ、演習や実習に臨んでいました。しかし、多くの学生と関わり、また先輩教員の指導場面を目の当たりにする中で、教育の主役は学生であるという、当たり前のことに気づくことができました。私は教員が教育の主役であるかのように捉えていたために、自らに過度なプレッシャーをかけていたのです。

教員がすべてを手取り足取り教えるのではなく、学生が自ら考え、学び、成長することを支援する。これは、私自身が臨床現場で新人や同僚の指導に関

わっていた頃から大切にしていた姿勢でもありました。

助産学生は、看護教育を経て助産師を志して学んでいる成人です。助産師として必要な知識や技術に加えて、社会人に求められる責任感や、主体的に学び続ける姿勢も育んでほしいと考えています。教育の主役は学生であると捉え直すことで、私は学生自身の能力や思考、判断を信じ、成長を待つ姿勢を持つようになりました。その結果、学生の思いがけない魅力や、予想を超えた成長に出会う場面が増えてきたと実感しています。

現在は、専攻科において1年間の大半を占める助産学実習が始まったところです。今年度は新たに担当する実習施設に学生を引率しており、学生とともに緊張した面持ちで病棟に足を踏み入れました。一方で、学生たちは初日から臨床指導者と良好な関係を築き、頼もしい姿で実習に臨んでいます。彼女たちが自分の力を存分に発揮し、成長できる実習となるよう、私は黒子としてそっと見守り、必要なときに導けるような教育を実践していきたいと思えます。

助産雑誌の紹介

- ◆助産師は女性の一生に寄り添う職業です。医療技術が進歩した現代では、より高度な知識が求められています。
- ◆本誌では、そのような臨床現場で欠くことのできない最新の知識と情報を毎月発信しています。
- ◆助産学生から新人、ベテランまで、幅広い年代の助産師に長年にわたり支持されています。

2025年の特集

胎児医療を知る—出生前診断の“その後”と助産師の役割／「私のお産」はみんな違う—それぞれの背景、経験、想いを聞いたロングインタビュー集／産む人と家族の選択肢を増やす「女性のための妊娠・出産のガイドライン」臨床での活用／助産所と連携した地域周産期医療体制の構築に向けて

隔月刊(偶数月)、年6冊
通常号定価:2,090円
(本体1,900円+税10%)

年間購読
電子:11,022円
(本体10,020円+税10%)
冊子:12,540円
(本体11,400円+税10%)
電子+冊子:15,840円
(本体14,400円+税10%)

詳しくは
こちらから



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 <https://www.igaku-shoin.co.jp> [販売・PR部] TEL:03-3817-5650 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp
FAX:03-3815-7804

第17回（通算62回）公益社団法人全国助産師教育協議会 定時社員総会開催のお知らせ

日 程：2026年6月27日（土）、28（日）

方 法：WEB開催

*詳細は、追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

第51回全国助産師教育協議会研修会のお知らせ

日 程：2026年2月14日（土）10時～15時

方 法：WEB開催（Live配信）

テ ー マ：『助産師教育と防災力

－ 母子を支える助産師の知と実践・災害に備える次世代教育－』

担当地区：東京地区

担 当 校：東京医療保健大学大学院（渡邊 香）

内容の詳細はHP、マンスリーメール等でお知らせしております。ご確認ください。

【担当校から】

近年、地震や風水害など自然災害の頻発や複合災害のリスクが高まる中、災害時における母子支援や避難所でのケアに果たす助産師の役割はますます重要となっています。母子の安全確保や心身のケア、授乳環境やプライバシーの維持、さらには被災者一人ひとりの背景や生活状況に寄り添った支援など、災害下や避難所で求められる実践は多岐にわたります。

本研修では、特に地震発生時の避難行動の分析や母子支援の具体的な実践報告に加え、女性・ジェンダー視点を踏まえた避難所運営の課題や改善策などを多方面から取り上げ、講演とシンポジウムを通じて共有いたします。

災害対応に必要な知識や支援のあり方を再確認し、教育現場での防災教育や次世代育成に活かすとともに、助産師教育に一層有効に取り入れられるよう準備を進めております。参加費は会員・非会員を問わず無料です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

どうぞよろしく願い申し上げます。

総合周産期センターにおける産後ケア事業の実際

日本赤十字社医療センター看護部 看護副部長

兼 周産母子・小児センター副センター長 **馬目裕子**

日本赤十字社医療センターは東京都渋谷区に位置し、2次医療圏を中心に、東京都とその隣接県からの母体・新生児搬送に対応している母体救命対応総合周産期センターです。産後ケア事業は2019年より、自施設で出産された1か月以内の母子に限定し、産科病床の一部を利用し事業を開始しました。翌年からコロナ禍となり、産後ケア利用者は月数件と利用者は増えず、分娩件数も減少の一途をたどっておりました。自施設は、女性の産み育てる力を引きだし、児の生きる力・育つ力を支え、母と子に優しい出産環境を目指した支援型産科医療を基本方針としています。そのため、医学的適応のない硬膜外麻酔分娩の導入には消極的でした。少子化、Covid-19パンデミックに加え、無痛分娩の常時対応の体制整備が競合する近隣施設に比べ遅かったことも相まって、自施設の分娩件数は急激に減少し、経営状況にも大きく影響を及ぼしました。分娩件数を増やし、産科病床の稼働率を上げ、医業収入を増やすことが喫緊の課題でありました。そんな最中の2021年度「産後ケア事業」の実施が市区町村の努力義務となりました。総合周産期センターとして、地域医療ニーズに応えることはもちろん、自施設の経営改善の一助になればと、産科の看護管理者、事務部門と協力し産後ケア事業の拡大に取り組みしました。「自施設で出産した1か月までの母子」という対象を「出産した施設は問わず、4か月未満までの母子」に拡大し、4自治体と事業委託契約を結び、

産後ケア事業の拡充を図りました。

現在では、利用者の約6割は自施設以外で出産した母子となりました。この取り組みにより分娩後の心身の不調を抱える方、育児に不安を感じる方、NICU退院直後で育児支援が必要な母子など、幅広いニーズに応えることが可能となりました。また、BFH認定施設である自施設が提供する母乳育児支援へのポジティブな評価をいただく機会も度々あり、助産師のモチベーションになっています。一方で、母体救命対応総合周産期センターとして、ハイリスクな母子を管理しながら、同時に産後ケア事業を安全に実施することが、当面の課題であると感じています。助産師は早期新生児の対応には慣れていますが、産後ケアを利用する多くは乳児であり、病院保育士の協力も不可欠となってきています。乳児期特有の事故防止対策を講じ、安全な管理体制を整えることも喫緊の課題です。産後ケア事業は、核家族化や社会互助意識の希薄化に伴う育児家庭の社会的孤立による母親の心身の負担を軽減し、健やかな育児の実践を支援することを目的とした事業です。施設にとって、決して収益性の高い事業とは言えませんが、社会的には非常に重要な事業であります。今後も地域・多職種と連携し、安全で質の高い周産期医療・助産ケアを提供することはもちろん、産後ケア事業にも尽力し地域社会のニーズに応えられる、周産期センターであり続けたいと思います。

機械制御だからこそできる
標準化された分娩介助トレーニング



MW76
自動分娩ユニット Sakuya

KYOTO KAGAKU

URL <https://www.kyotokagaku.com/jp/>
e-mail rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

本社・工場
〒612-8388 京都市伏見区北寝小屋町15番地
TEL.075-605-2510 (直通) FAX.075-605-2519

東京支店
〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目26番6号
NREG本郷三丁目ビル 2階
TEL.03-3817-8071 (直通) FAX.03-3817-8075



公益社団法人 全国助産師教育協議会

2024年度 第1回理事会次第

日時：2024年5月19日（日）13：00～15：55
 場所：全国助産師教育協議会会議室（ウェブ会議）
 出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
 太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
 永松 美雪、橋本 美幸（10名/10名）
 出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
 出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
 陪 席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2023年第9回理事会議事録（案）
 - ②2024年第1回・第2回・第3回・第4回臨時理事会（メール審議）議事録（案）
 - ③個人会員入会・正会員入会・退会承認
 - ④第15回全国助産師教育協議会定時社員総会議事冊子（案）
 - ⑤第15回全国助産師教育協議会定時社員総会運営スケジュール（案）
 - 2) 助産師教育研究研修センター運営委員会
 - ①助産師教育研究研修センター実習指導者講習会規定改定検討
 - ②2023年度助産師教育研究研修センター報告書
 - 3) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①助産学共用試験実施協力依頼（2024年度CBTのみ募集）
 - ②2024年度地区研修におけるOSCE評価者研修開催協力依頼
 - 4) 組織強化委員会
 - ①助産師教員キャリアラダー・レベルⅢ認定制度規程（案）
 - 5) 会計
 - ①第15回全国助産師教育協議会定時社員総会会計冊子（案）
- III. 報告事項
 - 1) 将来構想委員会
 - ①将来構想委員会報告書
 - ・麻酔分娩調査報告
 - ・「実習施設の確保に関するヒアリング」及び「コロナ禍の教育評価」
 - ②近畿地区学生交流会
 - 2) 助産師教育研究研修センター
 - ①助産師教育研究研修センター報告
 - 3) 教育検討委員会
 - ①教育検討委員会報告
 - 4) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報社会貢献委員会報告
 - 5) 資格・専門能力委員会

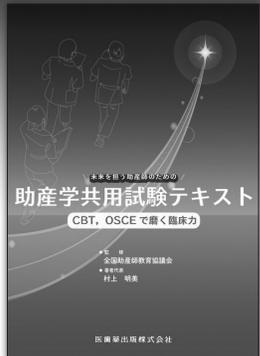
- ①資格・専門能力委員会報告
- 6) 助産学共用試験実装促進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①助産学共用試験実装促進委員会（アドホックプロジェクト）報告
- 7) 全国研修会
 - ①令和5年度全国研修会報告
 - ・研修会参加者・視聴状況
 - ・アンケート結果
 - ・収支決算報告
- 8) 助産師教育研修研究センター委員長
 - ①助産師教育研修研究センター企画研修進捗状況
- IV. その他
 - 1) 会長
 - ①日本助産評価機構次期役員推薦
 - ②The Princess Srinagarindra Award 2024受賞候補者推薦
 - ③賛助会員の入会推進

2024年度 第2回理事会次第

日時：2024年7月21日（日）13：00～15：00
 場所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
 太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
 永松 美雪（9名/9名）
 出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
 出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2024年度第1回理事会議事録（案）
 - ②2024年度第5回臨時理事会（案）
 - ③会員入会承認
 - ④選挙管理委員会の設置
 - ⑤自民党看護問題小委員会要望書（案）
 - 2) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①CBT作問研修「助産学共用試験CBT：Computer-Based testing」
 - ②CBT作問
 - ③委員2名増員
 - 3) 組織強化委員会
 - ①2024年度全国助産師教育協議会活動マップ（案）
 - ②国際交流会開催時期について
 - 4) 会計
 - ①旅費規程改定案
- III. 報告事項
 - 1) 将来構想委員会



助産学共用試験テキスト
CBT, OSCEで磨く臨床力

本書を習う妊産婦のための
 全国助産師教育協議会
 監修 村上 明美

医歯薬出版株式会社

助産学共用試験テキスト CBT, OSCE で磨く臨床力

全国助産師教育協議会 監修／村上明美 編者代表
 定価 7,700 円（本体 7,000 円＋税 10%）
 B5判 144 頁 ISBN978-4-263-71076-0

【主な目次】
 Chapter 1 助産学共用試験の概要
 Chapter 2 助産学 OSCE の実施体制
 Chapter 3 助産学 OSCE のために身につけておくべき事項

本書では実習前 OSCE を中心に解説し、運営体制、標準模擬患者、評価者の要件などの実施者側がふまえるべき点のほか、受験者となる学生の学習を深める内容として、OSCE のための助産の共通技術を示した。
 実習開始前の助産師学生の「知識」「技能」「態度」を評価する助産学共用試験での助産学生の能力の質保証は、助産師教育の発展とわが国の母子保健の向上につながる。

詳しくは
こちら



- ① 将来構想委員会報告
- 2) 助産師教育研究研修センター
 - ① 助産師教育研究研修センター報告
- 3) 教育検討委員会
 - ① 教育検討委員会の報告
- 4) 広報・社会貢献委員会
 - ① 広報・社会貢献委員会報告
- 5) 資格・専門能力委員会
 - ① 資格専門能力委員会報告
- 6) 助産学共用試験実装促進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ① 助産学共用試験実装促進委員会（アドホックプロジェクト）報告
- 7) 庶務・総務 総会担当校
 - ① 第15回全国助産師教育協議会社員総会参加状況およびアンケート結果
 - ② 第15回全国助産師教育協議会総会に関する運営評価および収支報告
- 8) 関東甲信越地区
 - ① 関東甲信越地区研修会開催
- IV. その他
 - ① 日本助産実践能力推進協会からの報告
 - ② 2024年度からアドバンス助産師の申請料
 - ③ 2024年度助産学会の企画

2024年度 第3回理事会次第

日時：2024年9月16日（月・祭日）13：00～15：50
 場所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
 太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
 永松 美雪（9名/9名）
 出席監事：渡邊 典子（1名/2名）
 出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
 陪席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ① 2024年度第2回理事会議事録（案）
 - ② 会員規程の一部改正（案）
 - ③ 賛助会員入会承認
 - ④ 2025-2026年度役員選挙スケジュール
 - 2) 将来構想委員会
 - ① 「コロナ後の分娩介助実習と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査」の調査項目について
 - ② シミュレーションシナリオの広報：助産雑誌への記事掲載
 - 3) 教育検討委員会
 - ① 2022年度 助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査（案）
 - 4) 助産学共用試験実装促進委員会（アドホックプロジェクト）

- ① 追加予算
- ② 評価者研修会
- 5) 組織強化委員会
 - ① 2024年国際交流会企画と予算
- 6) 会計
 - ① 2024年度助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）追加予算の財源
 - ② 講演以外の作業時間分謝金上乘せ
- 7) 共用試験テキストの技術内容に関する意見聴取
- III. 報告事項
 - 1) 助産師教育研究研修センター
 - ① ファーストステージ研修アンケート結果
 - ② 特定分野研修
 - 2) 教育検討委員会
 - ① 助産師教育開始時における助産学生の看護技術到達度及び実習状況に関する実態調査
 - ② 助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査
 - 3) 広報・社会貢献委員会
 - ① 広報・社会貢献委員会報告
 - 4) 資格・専門能力委員会
 - ① 資格専門能力委員会報告
 - 5) 助産学共用試験実装促進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ① 助産学共用試験実装促進委員会（アドホックプロジェクト）報告
 - 6) 助産師教育研究研修センター委員会
 - ① 助産師教育研究研修センターの進捗状況
 - 7) 組織強化委員会
 - ① 会員勸奨チラシ
- IV. その他
 - 1) 会長より
 - ① 「助産学実習受け入れ施設に教育・指導補助金を支給するための予算措置」として「地域医療介護総合確保基金」活用推進
 - ② 第20回ヘルシー・ソサイエティ賞受賞者
 - ③ 「NPO法人ひまわりの会」からの依頼
 - ④ 「共用試験」の使用許諾

2024年度 第4回理事会次第

日時：2024年10月27日（日）13：00～15：00
 場所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
 太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
 永松 美雪（9名/9名）
 出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
 出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
 陪席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務

分娩介助モデル「ひろこ」

LM-114 標準価格 ¥550,000(税別)

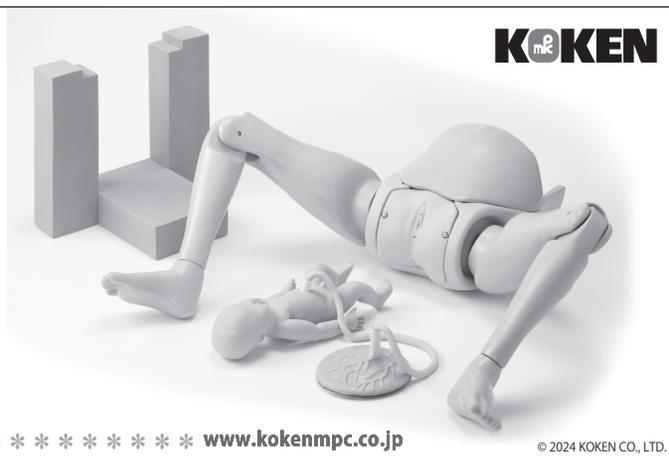
側臥位、四つん這いを含む正常分娩時の介助演習が可能です。会陰保護から、胎児・胎盤の観察など一連の演習ができます。下肢があるため、臨産に近い状態での演習ができます。外陰部は旧製品の物（内診モデル外陰部Ⅱ型、分娩介助モデル用外陰部Ⅱ型、裂傷縫合モデル外陰部）をそのまま使用することが可能です。

株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)393-5115
 東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
 大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

***** www.kokenmpc.co.jp *****

KOKEN



© 2024 KOKEN CO., LTD.

- ①2024年度第3回理事会議事録（案）
- ②個人会員入会承認
- ③役員選挙における監事の候補者資格
- ④他機関から依頼の冊子等の送料負担
- ⑤各省庁への要望書案
- 2) 助産師教育研究研修センター
 - ①セカンドステージ研修規程の改定
 - ②特定分野の実習指導者講習会の規程変更
- 3) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①プール問題公募啓発・応募促進事業作成・登録協力員のCBT問題作成者の活用
 - ②助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）の常設委員会への移行
 - ③共用試験の名称
- 4) 組織強化委員会
 - ①2024年国際交流会の予算
- III. 報告事項
 - 1) 将来構想委員会
 - ①「コロナ後の分娩介助実習と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査」の調査項目
 - 2) 助産師教育研究研修センター
 - ①助産師教育研究研修センター報告
 - 3) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
 - 4) 資格・専門能力委員会
 - ①資格専門能力委員会報告
 - 5) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）報告
 - 6) 関東甲信越地区
 - ①第50回全国研修会（修正内容報告）
- IV. その他
 - 1) 庶務・総務
 - ①2024年度会員の入会状況
 - ②2025年度事業計画（案）・予算（案）検討
 - 2) 会長より連絡／報告
 - ①「共用試験」商標使用契約
 - ②Princess Srinagarindra Award2024 受賞者報告
 - ③ヘルシー・ソサイエティ賞授賞式・式典報告
 - ④助産学実習に関する意見伺い
 - ⑤保助看法第37条に関する意見伺い
 - ⑥ICM会員協会の制作物に関する協定

2024年度 第5回理事会次第

日 時：2024年11月17日（日）13：00～15：10
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
 太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
 永松 美雪（9名/9名）
 出席監事：井村 真澄（1名/2名）

出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
 陪 席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2024年度第4回理事会議事録（案）
 - ②個人会員入会承認
 - ③各省庁への要望書案
 - ④2024年度地区長の開催
 - ⑤2025年度事業計画（案）
 - 2) 会計
 - ①2025年度予算（案）
 - 3) 将来構想委員会
 - ①望ましい助産師教育モデル・コア・カリキュラム改定案に関する調査の内容や方法
 - 4) 教育検討委員会
 - ①助産師教育開始時における助産学生の看護技術到達・実施状況に関する実態調査（案）
- III. 報告事項
 - 1) 将来構想委員会
 - ①調査の進捗と次年度の計画
 - 2) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
 - 3) 資格・専門能力委員会
 - ①資格専門能力委員会報告
 - 4) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）報告
 - 5) 関東甲信越地区
 - ①第50回全国研修会について
 - 6) 助産師教育研究センター委員会
 - ①教育研修センター進捗状況報告
- IV. その他
 - 1) 会長より連絡／報告
 - ①日本助産評価機構（JIME）との打ち合わせ

2024年度 第6回理事会次第

日 時：2024年12月21日（土）13：00～15：00
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
 太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
 永松 美雪（9名/9名）
 出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
 出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
 陪 席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

PROMPT Flexでシームレスな助産師教育を。

NLS 日本ライトサービス株式会社
 Nihon Light Service, Inc.



分娩トレーニング



内診トレーニング



〒113-0033 東京都文京区本郷 2-3-9 ツインビュー御茶の水 2F ☎ 03-3815-2354（直通） igaku@nlsinc.co.jp www.medical-sim.jp

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2024年度第5回理事会議事録(案)
 - ②2025年度事業計画(案)
 - ③2025年度全国助産師教育協議会社員総会日程(案)
 - ④2024年度地区長会次第(案)
 - ⑤助産師教育研修研究センター次期センター長
 - 2) 会計
 - ①2025年度予算(案)
 - 3) 将来構想検討委員会
 - ①麻酔分娩の調査の公表
 - 4) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①助産政策論の開催チラシ
 - ②2024年度助産学実習指導担当非常勤教員向け研修チラシ
 - ③助産学実習指導担当非常勤教員向け研修の規程
 - ④助産師教育ファーストステージ研修の規程
 - 5) 広報社会貢献委員会
 - ①全助協NL97号
 - ②WEB機関紙アドバンス助産師
 - ①、②掲載内容、執筆者検討
 - 6) その他
 - ①オンライン会議におけるAIツールの利用
- III. 報告事項
 - 1) 将来構想委員会
 - ①コロナ禍後の助産学実習(分べんの取り扱い)と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査
 - 2) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①助産師教育研修研究センターの進捗報告
 - 3) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
 - 4) 教育検討委員会
 - ①助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査
 - 5) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会の報告
 - 6) 助産学共用試験実装推進委員会(アドホックプロジェクト)
 - ①助産学共用試験実装推進委員会(アドホックプロジェクト)報告
 - 7) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①教育研修研究センター進捗状況の報告
- IV. その他
 - 1) 会長より連絡/報告
 - ①文科省・厚労省への要望書提出

2024年度 第7回理事会次第

日時: 2025年1月11日(土) 13:45~16:00
 場所: 全国助産師教育協議会事務局(ウェブ会議)
 出席理事: 葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子、太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵

永松 美雪(9名/9名)
 出席監事: 井村 真澄、渡邊 典子(2名/2名)
 出席幹事: 藤井 宏子、井上 理絵(2名/2名)
 陪席: 村上 明美(助産師教育研究センター長)

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2024年度第6回理事会議事録(案)
 - ②個人会員入会承認
 - ③2025年度事業計画(案)
 - ④2025年度全国助産師教育協議会社員総会日程(案)
 - ⑤委員会運営規程の修正(案)
 - 2) 会計
 - ①2025年度予算(案)
 - 3) 組織協会委員会
 - ①助産師教員キャリアアラダー・レベルⅢ認定制度規程(案)
 - ②助産師教員キャリアアラダー・レベルⅢ認定制度細則(案)
- III. 報告事項
 - 1) 将来構想委員会
 - ①「コロナ禍後の助産学実習(分べんの取り扱い)と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査について」
 - 2) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①助産師教育研修研究センターの進捗報告
 - 3) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
 - 4) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会の報告
 - 5) 助産学共用試験実装推進委員会(アドホックプロジェクト)
 - ①助産学共用試験実装推進委員会(アドホックプロジェクト)報告
 - 6) 組織強化委員会
 - ①国際交流会報告
 - 7) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①今年度の教育研修研究センター進捗状況
 - 8) 第50回全国研修会
 - ①第50回全国研修会報告
- IV. その他
 - ①役員選挙

2024年度 第8回理事会次第

日時: 2025年2月1日(土) 13:00~14:26
 場所: 全国助産師教育協議会事務局(ウェブ会議)
 出席理事: 葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子、太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵、永松 美雪(9名/9名)
 出席監事: 井村 真澄、渡邊 典子(2名/2名)
 出席幹事: 藤井 宏子、井上 理絵(2名/2名)

助産師基礎教育テキスト 2026年版 B5判



- 第1巻 助産概論・母子保健**
責任編集 工藤美子
頁数未定・定価未定
- 第2巻 ウィメンズヘルスケア**
責任編集 吉沢豊予子
頁数未定・定価未定
- 第3巻 助産サービス管理**
責任編集 成田 伸
頁数未定・定価未定
- 第4巻 妊娠期の診断とケア**
責任編集 森 恵美
頁数未定・定価未定

- 第5巻 分娩期の診断とケア**
責任編集 佐々木くみ子
頁数未定・定価未定
- 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア**
責任編集 江藤宏美
頁数未定・定価未定
- 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア**
責任編集 小林康江
頁数未定・定価未定

※2026年2月刊行予定

新版助産師業務要覧 第4版 2026年版 B5判

編集 福井トシ子・井本寛子
 ※2026年2月刊行予定

教育・臨床現場や社会情勢の変化に鑑み、2024年版より「第4版」に全面リニューアル。読者の立場に応じ、それぞれが必要とする内容に特化した巻構成

- I 基礎編** (主に助産学生が対象)
248頁(予定) 定価未定
助産業務の根拠となる関連法規や各団体の文書に基づき、基本的知識を解説
- II 実践編** (主に臨床助産師が対象)
320頁(予定) 定価未定
「助産師のコア・コンピテンシー」を構成する4つの能力を軸に、女性のライフステージ全般を見すえた助産実践に重点を置いて解説
- III アドバンス編** (「アドバンス助産師」、中堅的・管理的立場が対象)
264頁(予定) 定価未定
より高度な助産実践を展開するために必要な、マネジメントや政策の視点を紹介



〒112-0014 東京都文京区関口2-3-1
 (営業部) TEL.03-5319-8018 FAX.03-5319-7213
<https://www.jnpsc.co.jp>

コールセンター(ご注文に関するお問い合わせ)
 TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272

陪 席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2024年度地区長会議事録（案）
 - ②2024年度第7回理事会議事録（案）
 - ③個人会員入会承認
 - ④2025年度事業計画（案）
 - ⑤2025年度全国助産師教育協議会社員総会日程及びフライヤー（案）
 - ⑥日本助産学会学術集会共同企画希望募集
 - ⑦日本母性衛生学会学術集会企画希望募集
 - 2) 会計
 - ①2025年度予算（案）
 - 3) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①2025年度実習前助産学共用試験実習前助産学 CBT実施協力のお願ひ
 - ②2024年度助産学共用試験広報用チラシ（案）
 - 4) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①2025年度ファーストステージ研修チラシ（案）

III. 報告事項

- 1) 将来構想委員会
 - ①「コロナ禍後の助産学実習（分べんの取り扱い）と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査について」進捗報告
 - 2) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①助産師教育研修研究センターの進捗報告
 - 3) 教育検討委員会
 - ①助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査（進捗報告）
 - ②助産師教育開始時における助産学生の看護技術到達・実施状況に関する実態調査（進捗報告）
 - 4) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
 - 5) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会の報告
 - 6) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）報告
 - 7) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①教育研修研究センター進捗報告
- IV. その他
- 1) 日本看護協会賀詞交歓会参加報告

2024年度 第9回理事会次第

日 時：2025年3月9日（日）13：00～14：40
 場 所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
 出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子、太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵、永松 美雪（9名/9名）
 出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
 出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
 陪 席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事内容

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2024年度第8回理事会議事録（案）
 - ②2024年度第6回全助協臨時理事会（メール審議）議事録
 - ③正会員退会承認
 - ④R7-8 役員選挙結果報告、理事会推薦
 - ⑤役員選挙管理規程の一部改正（案）
 - ⑥2025年度第16回全助協定時社員総会の準備スケジュール
 - 2) 教育検討委員会
 - ①日本母性衛生学会第66回学術集会交流セッション抄録（案）
 - 3) 組織強化委員会
 - ①助産師教員キャリアラダーレベルⅢ認定制度規程（案）
 - ②助産師教員キャリアラダーレベルⅢ認定制度細則（案）

III. 報告事項

- 1) 将来構想委員会
 - ①「コロナ禍後の助産学実習（分べんの取り扱い）と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査」進捗報告
 - ②分娩期のシミュレーション教育プログラム助産雑誌への掲載報告
- 2) 助産師教育研修研究センター委員会（小川理事）
 - ①助産師教育研修研究センター進捗報告
- 3) 教育検討委員会
 - ①助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査（進捗報告）
 - ②助産師教育開始時における助産学生の看護技術到達・実施状況に関する実態調査（進捗報告）
- 4) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
- 5) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会報告
- 6) 助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）
 - ①助産学共用試験実装推進委員会（アドホックプロジェクト）報告
- 7) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①教育研修研究センター進捗状況の報告

編 集 後 記

今年度、広報・社会貢献委員会は新理事を迎え、8名の新委員でスタートいたしました。ニュースレター97号は昨年度までの旧委員から企画、準備を引き継ぎ、多くの先生方のご協力のもと発刊することが出来ました。心より感謝申し上げます。

さて、近年の助産学実習においては、分娩件数の減少やハイリスク妊産婦の増加に伴い、10例の分娩介助が困難な状況へと変化してきております。このような状況の中、教員と実習施設指導者は、助産師教育の質レベルを維持・向上し続けることが出来るよう一丸となり、学生指導にご尽力をいただいていることと存じます。今回のNEWS LETTERは、これらの課題をどのように乗り越えていけばいいのか総会の中で意見交換された内容に加え、また現在、進められている助産学共用試験実施概要としてCBT及びOSCEの進捗状況についてもご報告させていただいております。今後とも、このNEWS LETTERを通じて皆様のさらなる助産師教育の発展が出来ますよう期待しております。

井上 明子（愛媛県立医療技術大学）
 木戸久美子（香川県立保健医療大学）
 望月千夏子（湘南医療大学）
 森 聖美（中林病院助産師学院）

●助産師教育 NEWS LETTER No.97

2025年10月1日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局
 Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)
 会長 正岡 経子
 〒160-0003
 東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203号
 TEL 03-6384-2075 FAX 03-6384-2076
 (火・木・金 事務局在室)
<http://www.zenjomid.org/>
 E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

全国助産師
 教育協議会
 QRコード



<http://www.zenjomid.org/>
 バーコードリーダーで読み取ってください